

(件名) 看護学生が経済的不安なく学び続けられる環境の整備を求める陳情書

(陳情の趣旨)

日頃から県民の健康・福祉の充実に努力されている貴職に、心から敬意を表します。

『食費を削って授業料に充てている』『奨学金の返済がとても不安』『学費が高過ぎて看護大学への入学を諦めた』『生活の為に長時間アルバイトをせざるを得ず学業に集中できない』『学業だけに専念できる環境を国が作ってほしい』など、全日本民主医療機関連合会が行った「全国看護学生アンケート調査(1,214人が回答)」では、看護学生の過酷な実態と悲痛な声が多数寄せられました。日本は教育費への公的支出の割合が少ない一方で(OECD諸国最低水準)、学校関連にかかる費用(家計負担割合)は世界的に見て非常に高い水準にあります。

高等教育(大学・短大・専門学校)無償化の流れは、日本政府も批准している国際人権規約で定められた国際標準ですが、日本はこの半世紀の間に国立大学で言えば50倍にも学費を値上げしてきました。学費の値下げ、無償化は大きな家計支援策でもあり、少子化対策です。

コロナ禍で浮き彫りになったのは日本の看護体制の脆弱さでしたが、看護職の養成は、超高齢社会の中で益々求められおり、看護学生が経済的不安なく学び続けられる環境の整備は喫緊の課題です。

記

1. 国際条約である「高等教育無償化」を誠実に履行するよう、国に意見書を上げて下さい
2. 県内で看護職を目指す全ての学生が利用できる給付型奨学金制度(修学資金制度)を創設して下さい
3. 看護職養成校への県の補助金を予算化して下さい

署名団体 121団体

(署名簿一省略)